

第 16-16 号 盛り上がった大統領選挙と今後

1. 盛り上がった大統領選挙

11月3日、つまり米国大統領選挙の翌日に、たまたまボストンで、これから敗北宣言をしにいく民主党のケリー候補を見る機会がありました。さすがに本人は落胆した様子でしたが、会場の周りには多くの人がつめかけ、ケリー氏の健闘をたたえていました。この選挙戦を通じて、ブッシュ氏とケリー氏の間で、アメリカの現在の問題点や今後の方針について、オープンな議論が行われました。米国民にとっても、今現在、国にどのような問題があるかがよくわかり、国の将来の方向性について、改めて考えさせてくれる貴重な機会を与えてくれた、ということに対する感謝の気持ちも、集まった人たちの中にはあったと思います。オープンでわかりやすい仕組みは、このような民主主義にとっても、経済にとっても、極めて重要なことであると改めて考える機会でもありました。



厳重な警備の中、車を降りるケリー陣営と会場周辺に集まった人々

2. ブッシュ大統領再選の勝因

ブッシュ大統領再選の直接的な勝因としては、ブッシュ氏、ケリー氏のどちらの候補が獲得するか直前まで読めなかったフロリダ州などの3州のうちの2州をブッシュ氏が獲得したことで、それと同時に、獲得するだろうと事前に思われた州の多くを実際に確実に獲得した、つまり番狂わせを引き起こさなかった、ということも重要な勝因だと思われます。2000年のゴア元副大統領との選挙のときと比べると、今回の選挙でブッシュ氏が新たに獲得した州はわずか2州ですが、失った州もわずか1州でした。つまり、前回ブッシュ氏に投票した有権者が多かった州の有権者の多くは今回もブッシュ氏に投票し、前回ゴア民主党候補に投票した有権者が多かった州の有権者の多くは今回も民主党候補のケリー氏に投票した、ということです。この4年間に、景気の低迷、9.11同時多発テロ、イラク戦争など様々なことが起きており、我々も新たに発生する様々なことに目を向けがちですが、アメリカの人々の根底にある考え方は実はそれほど大きくは

変わっていないのかもしれない、ということは注意すべきなのかもしれません。

3. 今後の米国経済等の注目点

現職が再選されたわけですから、経済政策に大きな変更があるとは考えにくく、先ほどの選挙結果を見ても大きな変更は期待されているわけでもない、といえるでしょう。プラスの方から見ていきますと、ブッシュ大統領の共和党は、議会の上院、下院とも過半数を獲得しましたので、ブッシュ政権の運営は比較的スムーズに行えると考えられます。一般的にいうと、ブッシュ氏の属する共和党の政権は規制緩和を好むと考えられていますので、今後小さな政府による規制緩和を通して、民間の経済活動が活性化される可能性も高いと思われます。特に、規制を受けやすい業種であるエネルギー、自動車、保険、健康・医療、レストラン業界等にとっては、歓迎すべき結果となったとも考えられています。一方、懸念材料としてはやはり財政赤字への対応が重要と思われます。ブッシュ政権が減税路線を続け、財政赤字が拡大していきますと、最悪の場合はマーケットが財政赤字に恐れをなし、長期金利が急上昇し、外国の投資家も慎重になり、経済は低迷し、失業率は上昇し、家計の負債は大変な負担となり、経済成長のエンジンがなくなってしまう懸念もありますから、税制と財政赤字の問題が今後さらに注目を浴びることにあるでしょう。

(文責：ニューヨーク駐在 Senior Analyst 青木 武)

[戻る](#)

(文中意見にわたる部分は筆者の個人的意見であり、必ずしも信金中央金庫の見解を反映させたものではありません。本レポートは、掲載時点における情報提供を目的としています。したがって施策実施・投資等についてはご自身の判断によってください。また、本稿は、執筆者が信頼できると考える各種データ等に基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。)